

奄美大島の果樹

宮迫一郎*

Miyasako, I. The Fruit Industry in Amami-Oshima Islands

I. 奄美大島の果樹栽培環境 当地方は我国唯一の亜熱帯性地域であるが、台風被害は最も甚しく、また種々の悪性害虫が侵入して居る。土質は埴土多く耕土は概して浅い。農家の戸数と人口は共に81%内外で労力は豊である。耕地の77%は畑である。平均耕地面積は4反強で3反以下の農家は51%に達して居る。昭和29年度の農家平均租収入は11万4千円の見込であった。資金融資は困難である。次に畑作の大宗たる甘藷、甘藷とは甚しい競合はあるまい。交通事情は極めて悪く輸送費は高い。果実の国内向け移出、沖繩輸出は解決を急ぐべき障壁が多い。

II. 果樹の現況 一般的に粗放的な畦畔、宅地利用の栽植多く開園、栽培、販売について改善すべき余地は極めて大きい。

1. バナナ 約30万本で小笠原、低脚蕉、北蕉、仙蕉の順に多く生産見込は約21万貫。実績優良な例は多い。農家への導入と繁殖は容易、栽培は比較的に楽で収穫速く適期生産が出来、高価に販売出来る利点がある。バナナゾウムシの発生はまだ少い。

2. 柑橘 大部分8種位の在来種。12月に立派なボンカンが出来る。ミカンコバエのため移出禁止。

3. 鳳梨 主に瀬戸内地区に約3万本あり、結実するが優良品種が少く、青果価値はまだ高くない。移出可能。

4. 木瓜 到る処あるが優良品種は少い。移出禁止。

5. 枇杷 茂木種は3月中旬12匁以上に成熟し品質優良。含核数1~2個で果型は細長い。移出禁止。

6. 李 台湾の花栗李が約8万本あるらしい。繁殖、栽培は共に容易、豊産、品質不良。熟期6月上旬。復帰前は沖繩向けに有利だった。移出禁止。

7. 蒲桃 パンジロー類、果物時評草、これ等は放任でよく結実。果実の活用は少い。移出禁止。

8. 龍眼 レイシ、アボカド、マンゴー、シヤカ頭、ビタンガ、カリツサ、カイエンナツト、マカダミヤ、タマリンド、セイロンオリーブ、パンノキ等は試作されて居るが品質、収量に難点が残る。

III. むすび 奄美大島には熱帯性より暖帯性に及ぶ種々の果樹が栽植されており、農家は無論、関係諸機関においても増産意欲は極めて高い。多年の半宿命的疲弊を1日も速に脱却する方策の一つとして果実増産は至当な手段である。

そこで当地方の特異な環境に基き、将来産業として発展すべき果樹の具備すべき条件は、a. 暴風の被害を経済的に軽減し得て収穫の安定したもの。b. 技術的に経済的に経営的に一般農家に採用され易いもの。c. 他の地域に比し種類、品質、数量において卓越し競合せぬもの。d. 輸送性、貯蔵性の高いもの等であろう。

以上の見地よりして当地方の果樹の取扱は次のようにしたが良いと思う。

1. 早急に産業化すべきもの。バナナ、仙蕉を主とし低脚蕉を加える。適地約1千町歩、栽培技術の普及と繁殖、防疫、出荷の研究を早急に完成する必要あり。

2. 地帯を限定し或程度栽培すべきもの。鳳梨、瀬戸内地区以南で優良種を約50町歩程度で止めたい。

3. 当分は漸進的に普及さすもの。イ。ボンカン、タンカン、文旦、将来ボンカン約150町歩、他は夫々約50町歩位に止める。開園、台木、系統、栽培、出荷等研究事項が多い。ロ。木瓜 優良品種を普及する。ハ。枇杷 果型を改善する。以上何れも害虫問題を先決。

4. 早急に加工を研究すべきもの。前述のⅡ項一7。

5. 観光資源として局部的に確保すべきもの。前述のⅡ項一8等で、その他更に導入試作すべきものが多い。

以上文献は昭和29年3月の鹿児島県及び同大島支庁の各種資料によつた。

*鹿児島県農業試験場垂水柑橘分場